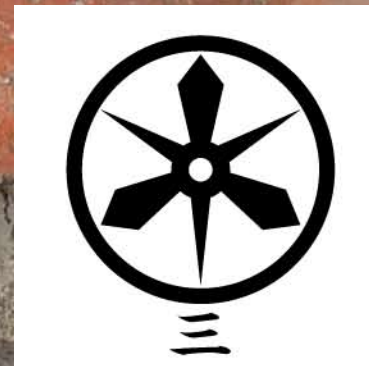


# 今月の煉瓦 京都鉄道社章印

製造年:明治30年(1897)～32年頃



京都府亀岡市の旧市街地や旧山陰街道沿いに散見される刻印。明治28年に設立され、同32年に嵯峨～亀岡～園部間の鉄道を開業させた**京都鉄道株式会社**の社章、及び作業者識別用と思われる漢数字が刻まれている。



その分布域や土地柄、意匠から、京都鉄道の建設に供給するべく製造されたものと推測される。事実、京都鉄道が遺した地蔵第二トンネル(現・嵯峨野観光鉄道)の東口ピラスターにはこの刻印煉瓦が使用されている。



一方で、嵯峨野観光鉄道トロッコ亀岡駅の西側に残る煉瓦拱渠にはカナ刻印”ハ”が見られる。地蔵第二トンネル近傍でもカナ印の転石を検出するし、冒頭に掲げた社章印煉瓦も”イ”刻印煉瓦と共使用いの状態で民家敷石に使用されていたものである。

京都鉄道が嵯峨～園部間を建設しようとしていた頃、亀岡市域には複数の煉瓦工場があった。例えば亀岡市篠町馬堀には明治28年に**京都煉瓦製造株式会社**の分工場が作られ、翌年には地元有志により**南桑煉瓦合資会社**が設立されている。カナ印は大阪府下の工場の製品でありそうだが、社章印は亀岡のいずれかの工場で製造された可能性が高い。



南桑煉瓦の社長を務めたのは篠村在の有力者・**山田理一郎**であった。篠村総代や村長も務めた彼の日記に、南桑煉瓦の創立から解散までの紆余曲折も克明に記録されている。この日記の紹介(解説)を中心に、当時亀岡で何があったのか、社章刻印煉瓦は誰が作ったのか——を追究する記事を近々書きたく思っている。(な)